

下水道管更生技術施工展 2022長崎 開催



井坂 昌博

ISAKA Masahiro

(公社)日本下水道管路管理業協会
常務理事

1. 更生工法分野最大の施工展

下水道管更生技術施工展(第21回)が10月20日(木)に長崎県大村市にあるポートルース大村の駐車場で開催された。九州地方での開催は、2011年の福岡で実施して以来11年ぶりである。

昨年は北海道で実施する予定であったが、新型コロナウイルスの猛威により中止となった。2022年のこの時期は新型コロナウイルスの影響が残っている中ではあるが、新型コロナウイルスによってこれまで中止されてきたイベントが復活し始め、人々の行動様式も従前に戻りつつあることから、この施工展を開催することとした。もちろん、こうした状況下であるので、検温と消毒を実施しマスク着用を基本とする等の基本的な感染対策を行った。

今回の施工展の話をする前に背景の話を述べる。管きよの更生工法は多くの工法があるが、現在(公財)日本下水道新技術機構の審査証明を取得している工法だけでも69工法に上るため、多くの人はその違いが分からない。しかし、土木技術という性格上、実物を見、説明を聞けば、ほぼ理解できる。この展示会は、各種工法や関連技術を一堂に会しデモ施工を実際に見てもらい、その最新の技術を体で感じてもらうと毎年全国を巡回して開催しているものである。



写真-1 会場風景

今回は、九州地方という今後管更生工法の発注が大きく伸びるであろうと予想される中での開催という事もあり、42社・団体と近年にない多くの出展数となった。来場者数も1500人を超え、関東地方で開催した2020年に引けを取らない人出があった。また、こうした展示会において出展者は、官公庁の職員に自工法をPRする事が大きな目的の一つである。今回は全体の人数の22%と、若干ではあるが、従来よりも多くの官公庁の職員に来ていただいた。

下水道の展示会では、下水道展が最大のものであるが、屋内であることやブースの制約から全ての出展者がデモンストレーションを行うことは難しい。更生工法においてこれほど多くの工法が一堂に会してデモンストレーションを行っているのは、この施工展以外には見当たらない。この施工展が注目を集める所以である。

2. 世相を映す展示内容

開会式は、ミス日本水の天使の横山莉奈さんに司会をお願いし、来賓として国土交通省水管理・国土保全局 松原誠下水道部長をはじめ、九州地方整備局建政部長、長崎県副知事、大村市長、(公社)日本下水道協会理事長が忙しいスケジュールを縫って出席され、注目が集まる中での開催となった。主催者を代表して当協会の長谷川会長の挨拶に引き続き、松原部長をはじめとして各来賓の挨拶が行われ、管更生工法に対する期待が述べられた。テープカットの後は来賓の方が各ブースを見回る内覧会が催され、いよいよ開幕となった。

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管きよ更生・修繕改築技術が中心であるが、関連技術としてマンホール改築や調査点検技術等多く出展され、管路管理全般の展示会の様相であった。

特に今年は、ドローンを使った点検・調査技術が数社から出展されていることが特徴であった。近年ド



写真-2 開会式（テープカット）



写真-3 内覧会の様子

表-1 出展団体の分類

分類	出展社数
管きよ更生・修繕改築	16
マンホール改築・補修 コンクリート防食被覆	8
点検・調査・診断 穿孔ロボット	10
管内洗浄・清掃	3
安全衛生管理	2
後援団体	3
合計	42

ローン技術が発展し様々な分野で使用されるようになった。人が入りにくい下水道管のような場所を点検するためにはドローンは最適であるが、下水道管は円形の狭い空間であるので、ドローンを飛ばすことが難しい。それは、ドローンは下に押し出す力の反力で上に上がることが出来るが、円形の狭い空間であると、下に押し出した風が側壁を伝わってドローンの上部にあたり、逆にドローンを下に押し下げる力が働くためである。この結果、ドローンは安定して飛ぶことが出来ず、側壁等に激突してしまう事になる。これらの難題を解決したものが各社から出展されていた。

展示会では、実演も行われ、1団体20分程度の枠を設け、実機を用いたデモンストレーションによって施工の手順や様子を実際に目で見て確認することができた。「百聞は一見に如かず」ということわざがあるが、実際に見た記憶は長く残り、強く印象付けられる。

3. 展示会に合わせた自治体研修会と高校生を対象とした研修会の開催

今回は、福岡県、佐賀県、熊本県、長崎県の自治体

職員向けに管きよの更生工法の研修会を当協会が開催した。この研修会で更生工法全体の概要を座学で聞き、その後、施工展において実際にデモンストレーションで更生工法を見るという形式である。福岡県、佐賀県、熊本県の自治体の職員が参加しやすいようバスを用意した。この施工展の目的が自治体職員への更生工法に対する理解促進と、発注者である自治体への更生工法のPRであることを考えた時、これらの研修に多くの自治体職員に参加して頂いた事は、今回の施工展が例年以上に有意義であったと考える。

また、今年も参加していただいた方に効率的に見学していただくため、午前と午後に3つのグループを設け、長崎県部会の会員によるガイドツアーを企画した。ツアーであるため効率的に回る事ができ出展者の説明があることから、参加者にとっては様々な工法を知る大変良い機会であった。

今年の大きな特徴は、高校生を対象とした研修会を大規模に開催した事である。例年は2、3クラス程度であるが、今年は6学校12クラスの生徒を対象に研修会と学生ガイドツアーを実施した。バスチャーター、引率・誘導者の手配、ガイドツアーのコース設定等大変な苦勞であるが、学生がこの仕事に興味を持ってくれば大きな意味を持つと考えていた。しかし、若い人の躍動感ある行動や積極的な言動を見ていると、逆に私たちの方が多くの刺激を受けた。

4. 大盛況の講演会

併催行事として下表の講演会を、昼の時間に水の天使の横山莉奈さんの司会の下、会場に隣接するホールにおいて行った。会場のホールは定員が500席あるが、

表-2 講演会プログラム

「マネジメント時代の下水道事業」	
国土交通省水管理・国土保全局 下水道部長	松原 誠
「長崎県の汚水処理施設について」	
長崎県 県民生活環境部水環境対策課長	松尾 晴彦

多くの聴講者が会場につめかけ、写真等を用いた講演に熱心に聞き入っていた。

講演は、国交省の松原部長から災害対応や予算、下水道事業の各種施策の話をして頂いたことに続き、長崎県の松尾課長から長崎県の汚水処理施設の現状と対応をお話いただいた。

5. 来年の施工展へ

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されている。来年の開催場所は、中国・四国支部の



写真-4 講演会の様子

高知市で開催することが決定している。高知という四国を代表する都市で開催することもさることながら、今後更生工法が大きく伸びる地域であると考え、これまでにない展望のある施工展が開催できると期待される。南海の雄、高知にふさわしいものとなるよう当協会が一丸となって企画していきたい。

非開削技術 広告掲載のご案内

環境にやさしい非開削技術

本誌「非開削技術」への広告掲載をご希望の方は非開削技術編集室またはJSTT事務局までお問い合わせください。

発行年4回：4月・7月・10月・1月の1日発行
 広告サイズ： 1頁＝縦255mm×横175mm
 1/2頁＝縦120mm×横175mm

■ 非開削技術 広告掲載料金 (会員価格)

掲載場所	サイズ	刷色	掲載料金
表1	1頁	カラー	220,000円
表2			308,000円
表3			275,000円
表4			352,000円
後付	1/2頁	モノクロ	49,500円
	1頁		77,000円

※広告掲載料金は1掲載当たりの金額です。(消費税込)

広告のお申し込み・お問合せ

非開削技術 編集室
 (株)LSプランニング Tel 03-5621-7850 Fax 03-5621-7851

発行
 (一社)日本非開削技術協会 Tel 03-5639-9970 Fax 03-5639-9975